



わが子にも
きっと待ってる
こんな**未来!**

大学生・専門学校生に
教えてもらった

熱中! 夢中!

いまどき学生生活

高校生の約7割は、卒業後に大学や短大、専門学校に進みますが、声高に叫ばれるのは学生の学力低下や就職難などの暗い話ばかり。これでは将来のことを考えるのが憂鬱になってしまいますよね。そこで学生生活を謳歌している7人の先輩たちにインタビュー。いまどきの学生生活の楽しさを聞いてきました。彼らの話を参考にして、高校生活をキラキラした未来につなげてください。

取材・文／平井美里 撮影／刑部友康、榎本祐介、石田祥一

※学年は取材時(2011年1月)のものです。



教授もゼミ生も、
すごく仲が
いいよね、
うちのゼミ!

1

**1年の少人数ゼミで
大学の勉強に目覚めた**

成蹊大学 文学部英米文学科 4年 五十嵐まどかさん

学んだことを生かし
40枚の卒論を執筆

高校までと大学で大きく違うことの
一つが学習方法。大学では、先生から一
方的に教わるだけでなく、テーマを絞
り自分で深めていくことも多くなり
ます。そんな違いに不安を感じる高校
生もいるでしょう。成蹊大学の五十嵐
まどかさんも高校時代は不安を感じ
ていました。

「大学の先生は『教授』というくらいだ
から遠い存在だと思っていました。気
軽に質問もできそうにないなと」

そんな学生のため、最近は少人数教
育に力を入れる大学が増えています。
成蹊大学の文系学部では1年次から
ゼミを開講。教授を中心とした少人数
のグループで、大学での学びに必要な力
を基礎から養います。

「1年次は国際文化について書かれた
英文を読むゼミに入りました。10人強
のクラスだったので、人に頼らず自分
で予習する習慣ができました。2年次は
シェイクスピア作品を読むゼミでさらに

■ 成蹊大学の大きな学習の流れ

1年	参考文献の探し方やレポートの書き方、発表の仕方などを、ゼミの学習を通して学ぶ。
2年	ゼミで議論の組み立て方や専門分野について学び始める。
3年	最後のゼミを選んで所属。4年生と一緒に専門分野を研究する。ゼミ合宿で教員やほかのゼミ生と親睦を深める機会もある。
4年	ゼミの教員の指導を受けながら専門テーマを深く掘り下げ、卒業論文を書く。

多くの英文を読みました」
 並行して留学の準備もしていた五十嵐さん。入学当初は「できたらいいな」というあこがれ程度でしたが、同じく留学を希望する友達に刺激されて勉強に励み、TOEFLの点数もアップ。2年の3月から10カ月間、アメリカのユタ大学で学びました。
 4年次はいよいよ卒業論文の執筆です。アメリカの人種問題をテーマに2冊の原書を読み、40枚（1枚800字）の論文を書きました。
 「書きはじめるまでは『そんな難しいことムリ!』と思っていたけれど、やってみたらできました。気がつかないうちに、考える力がついていたのかも。4年次のゼミの庄司宏子先生は、気さくな雰囲気での指導をしてくださりました。いい出会いだったと感謝しています」

「研究室に住んでみたい」
 って
 よく言われます



2

治山・緑化の研究室で 環境問題に取り組む

東京農業大学 地域環境科学部森林総合科学科
 治山・緑化工学研究室 4年 三平祐樹さん

現場に足を運んで 森林の実態を知る

文系学部のゼミにあたるのが、理系学部の「研究室」。多くの理系学部では、3年次か4年次から研究室に所属します。東京農業大学の三平祐樹さんは、ほかの学生より早く、1年次から福永健司先生が率いる治山・緑化工学研究室に入って学んできました。
 「高校時代から森林や環境問題に興味があったので、大学に入学してすぐ



岩手県の八幡平で
 植生を調査中。



世界遺産にもなっている白神山地で福永先生を囲んで。研修旅行は「春旅」「秋旅」として年2回行われている。

に研究室に入りました。早くから先輩の研究の話を知ること、正確な背景知識を学べてよかったと思います。例えば森林は水を蓄える働きがあると思われていますが、実際は森林も生き物で水分を使うので、もし干ばつになったら、山の木を切ったほうが水を確保できる場合もあるんですよ。知らなかったの、聞いた時はびっくりしました」
 研究室では、森林を再生・保全するため、自然災害や開発で荒廃した土地を緑化する方法や、その際に使う種子

や苗木、リサイクル資材、またそれらの土壌生態系への影響などを、幅広く研究しています。そのなかで三平さんは、できるだけ山を荒らさない林道の作り方を研究し、卒論にまとめています。技術をないがしろにして林道を作るとすぐに削れたり崩れてしまうので、どうしたらコストをかけずに安定した林道を作れるのか、自治体や森林組合などの関係者に話を聞き、実際の森林に足を運んで考えているのです。
 「学問として机の上で学んだことを、実習で体感できるのがおもしろいし、現場に行くのが純粹に楽しいです」との言葉に、研究に対する情熱が感じられます。
 現場でデータを集めたあとは、研究室で解析したり既存の文献を調べたりして考えを深めます。その作業に没頭するあまり、研究室に泊まりこむこともしばしばだとか。その疲れも見せず、生き生きと研究について語る三平さん。卒業後は大学院に進学します。

3

コンテストに積極的に参加 服作りの腕を磨く

文化服装学院 ファッション高度専門士科 3年 神田奈々美さん



作ることが
一番好き!
寝るのも
忘れちゃいます

企業とのコラボや 実店舗での販売も

「子どものころから服を作ることが大好き。今も夜中に思い立ってスカートを作り始めたり、寝ないで制作してそのまま学校に行ったりすることがあります」と、服作りに対する情熱を語ってくれたのは文化服装学院の神田奈々美さん。4年間のカリキュラムを

修了すると、文部科学省から大

学院の入学資格が得られる称号

「高度専門士」が付与される

専門学校でファッション

のクリエイションを学んでい

ます。服作りに関してとこ

とんバワフルで、学校の課題

をこなすのももちろん、コン

テストに出品したり、地元の

ショップに自作の服を置いて

もらったり、フリーマーケット

で手作り小物を販売したり



伊勢丹と雑誌「装苑」とのコラボレーション企画で制作中のガマロバッグ。授業の課題でコートを作った時に使ったカラフルな毛糸を生かして、Happyを表現。

と、精力的に活動中。取材時は、伊勢丹と雑誌「装苑」とのコラボレーション企画に参加するため、「Happy Together」をテーマにガマロのバッグを制作していました。

「コンテストの情報は学校に掲示されるので、マメにチェックしています。応募するとプロが審査してくれるので、人に評価される訓練になるんです」

3年間勉強してきて、「作りたい」と思ったものを形にする力が以前よりついたと感じているそう。同じ夢をもつクラスメイトと刺激し合える環境も制作意欲につながっています。

「今年の目標は、作ることを楽しむだけでなく、その作品を通して、人の輪を広げていくこと。最近、インターンシップ先のショップの人と「今度一緒に何か作ろうよ」という話になったんですよ。将来、ファッションデザイナーになりたいので、いろいろなことにチャレンジして、夢につながっていきたいです」

大学の「今」が よくわかるキーワード

● 単位互換制度

特定の科目について、提携するほかの大学で授業を受けられ、単位認定される制度。提携校を組織化したものを「コンソーシアム」と呼び、国公立大50校が集まった「大学コンソーシアム京都」をはじめとして、全国に約40組織ある。利用すれば、自分の大学にない授業も受けられる。

● リベラルアーツ

専門分野に特化しない、幅広く教養的な知識というような意味で広く使われている。リベラルアーツ専門の学部・学科がある場合と大学の教育自体がリベラルアーツを標榜している場合とがある。学生にとっては早くから専門分野を絞らなくてよいというメリットもある。

● 資格志向

不景気の影響で、教員や管理栄養士といった資格が取得できる学部の人気が高まっている。また大学が学内にダブルスクールのな講座を設け、比較的安い受講料で提供している例も多い。さらに最近は大大学の専攻とまったく異なる分野の専門学校に通う動きも広がっている。

● オープンコースウェア

大学の講義をインターネット上に公開し、誰でも受講できるようにしたもの。アメリカのマサチューセッツ工科大学が最初に行い、日本でも東京大学をはじめとする大学が一部の講義をサイトで公開している。無料で大学の講義を全部聞けてしまっ日も近いかもしれない。



帰国後、母に
「声が大きくなった」
と言われました

4

ダブルディグリー制度で 北京大學に留学

早稲田大学 文学部文学科中国語中国文学コース
4年 香月夏子さん

中国パワーを受けて
積極的な性格に

の積極性。



中高で剣道部だった経験を生かし、北京大学の剣道部に入部。友達がたくさんできた!

5

サークル「探検部」で 国内外の秘境を探検

慶應義塾大学 経済学部経済学科 2年 倉田航輔さん

新入生は合宿先へ
ヒッチハイクが伝統

大学には高校のようなクラスがないので、自分の居場所を見つけないといけない。そこで多くの大学生がサークルや部活に入ります。各大学には多種多様なサークルがあり、慶應義塾大学だけでも400以上の公認学生団体が活動しています。その中で今回は約40年の歴史をもつ探検部に話を聞きました。

探検部の活動内容は、洞窟探検、廃墟探検、登山、ラフティング、海外旅行など様々。各自が月1回くらいのペースで何らかの活動に参加します。新入生は毎年、合宿先までヒッチハイクをするのが伝統で、今年は東京から青森までヒッチハイクしたとか。1年生の明石知也さんは、取材に「平気でした」と言っていました。ですが、ブログには「心が折れそうになる」と書いてありました。辛い体験は忘れてしまったのかも。たくましい

日本からアメリカへ渡る留学生が減少していますが、一方で中国などアジア圏への留学は注目が高まっています。早稲田大学の香月夏子さんは、北京大学ダブルディグリープログラムに参加し、北京大学の国際関係学院で10カ月学びました。ダブルディグリーとは2つの学位を同時にとること。香月さんの場合、本来の文学士と北京大学の法学士をとれることになりました。

「このプログラムなら、現地の学生と机を並べて勉強できます。単位を落とせないのが大変でしたが、それだけに勉強に集中できました。特に大変だったのは論述試験です。私は本番で文章をスラスラ書ける自信がなかったので、事前に各科目の出題を予想して、その解答を考えて文章にし、中国人の友達にアドバイスをもらったうえで、暗記して試験に臨んでいました」

印象に残っているのは、中国人の学生

「日本の大学では教室の後ろの席から埋まりますが、中国では前の座席に名前を書いた紙を貼って席取りをします。試験前に『勉強した?』と聞かれて『してない』と謙遜する人もいます。国全体に『のほごいこう』という雰囲気がある点にも励まされました」

留学の就職活動への影響を懸念する人もいますが、香月さんの場合、大学5年で卒業するため、普通の学生と同じペースで就職活動を行っています。むしろ留学経験をアピールして、インターシップの事前選考を通過するなど、経験が武器になっている様子。

「今、就職活動をしていて『新しいことに挑戦できるのが楽しみ』『頑張ればうまくいく』と思えるのも、留学で自信がついたから。もし留学するか迷っている人がいたら、どの国でもいいので、ぜひ思い切って行ってみてください。きっとかけがえない時間を過ごせるはずです」

ことです。

部長の倉田航輔さんは、長身ということもあり、探検部の王道・洞窟は苦手。ひたすら歩く活動が好きで、雪の熊野古道を歩いて越えたり、真冬の韓国を自転車で縦断したりしています。重い荷物を背負って雪道を進むのは、「寒くてツラくて楽しいことは一つもない」そうですが、「歩き通すと何でも辛く感じられる。コンビニが見えただけでめちゃくちゃうれしい」(野崎悠平さん)、「ツライほうが記憶に残る」(倉田

さん)と頼もしいコメント。春休みには、ギリシャの北に位置するアルバニアからイタリアのトリエステまで1000キロメートル踏破を目指します。もともとそんなストイックな部長に従う部員ばかりでもないようで、春休みは部長たちの部隊と別に、海外観光旅行チームも編成。自由と自主性を尊重して活動しています。学生の自分は学業に違いありませんが、サークルに所属すれば、学問と違う新しい世界を見られそうです。

新人大歓迎!
(特に女子)
大学に入ったら
ぜひ探検部へ!



赤い服が部長の倉田航輔さん。ほか右下から時計回りに野崎悠平さん、高梨将紀さん、高橋功武さん、明石知也さん、渡部宏紀さん



(左)韓国を自転車で縦断。ブレーキが壊れるなどの危ない場面もあったが無事走破。(右)奥多摩の洞窟にて。

料理が得意♡
今日のランチは
クリームパスタです

6

料理やインテリアの工夫で 一人暮らしを満喫

東京家政大学 家政学部栄養学科管理栄養士専攻 2年 塙 美紀さん

離れてみて実感する
親のありがたさ

東京私大教連の調査では、2009年度の首都圏私大生の仕送り額(6月)は月9万3200円でした。この数字は1994年以降下がり続けているものの、月10万円近い出費は覚悟が必要です。

しかし、学生時代から自活力をつけられるのが一人暮らし。東京家政大学の塙美紀さんは、一人暮らしを始めてから学んだことがたくさんあるといいます。「一人暮らしを始めた直後は開放感でいっぱい、つい遊びすぎてしまいました。その反省をふまえて今は健康的な生活スタイルを心がけています。実家で暮らしていた時はまったくしなかった掃除や洗濯も自分でするようになり



ました」

一方で、元々得意なのが料理。時間がある時に多めに作り、余った分を冷凍保存して忙しい時に備えています。また週3回は大学にお弁当を持参。作る時間が足りない時は、おにぎりを握って持っていく、学食で100円のサラダと組み合わせて食べます。「スーパーでの買い物はポイント10倍の日を狙う」と節約も怠りません。

インテリアに凝ることができるとも、人暮らしの醍醐味です。埴さんは、自分が気に入って長く使えそうな家具や雑貨をコツコツとそろえて今の部屋を作りました。

「壁のレンガ模様が気に入ってこの部屋を選びました。大学の友達もよく遊びに来てくれて、みんなで鍋パーティーをしたりするんですよ。テーブルが小さくてアイロン台まで総動員になります。とても盛り上がりやすい。逆に大変なことは、風邪をひいた時でしょうか。一人でじっと寝ていると、親のありがたさが改めてわかります。実家に住んでいたころは少しうるさく感じることもありました。離れたと会いたくなくて、よく実家に帰っちゃいます。一人暮らしをさせてもらって感謝しています」



この日の昼ご飯は、豆乳とシメジのクリームスパゲッティとアボカドサラダ。残っている食材を使って料理するのも上手になった。

7

充実した学生生活が 内定につながった

九州大学 経済学部経済・経営学科
4年 江崎裕太さん

アルバイトとゼミの 経験を例にアピール

明るい兆しが見えない企業の新卒採用ですが、このような状況のなかで健闘している学生もいます。九州大学の江崎裕太さんは、大手通信会社の内定を獲得。「就職活動をやつてよかったです。これほど自分のことを考える機会はないし、見つけた自分の長所を企業にアピールし、それが受け入れられることで自信ができました」と語ります。

江崎さんがアピールした経験のつが、テレビ局のアシスタントのアルバイト。

4月から
社会人!
結果を出せるよう
頑張ります!



■ 江崎さんの就職活動の大まかな流れ

3年 10~12月
合同説明会
月1~2回企業の合同説明会に出席。

12~1月
自己分析
自分の適性や希望を見つめ直す。

2月
エントリーシート提出
第1志望の通信業界のほか、メーカーや金融系も含め12社にエントリー。

2~3月
面接
10社で1次面接、8社で2次面接を受けた。

4年 4月
内定獲得!
第1志望の企業に、エントリーシート→適性検査試験→面接3回という流れで合格。

「この仕事で、相手の行動を予想して動けるようになりました。このカメラマンは横から撮りたがるからこのセットをどけておこうとか、このディレクターは忘れっぽいからひと声かけておこうとか。相手を理解するために、人をよく観察するようにもなりました」

もう一つ大きな経験となったのが、ネットワーク産業を研究する実積寿也先生のゼミに入ったこと。かなり厳しいゼミで、レポート提出やグループ発表などの機会にずいぶん鍛えられました。就職活動では、この2つの経験を例としながら自分の長所をアピール。第1志望の最終面接では、「これで落とさ

れたら仕方ないな」と思えるほどしゃべりました。

「その時点でできることを精いっぱいだったので、合否はどちらでも仕方ないという気持ちでした。でももちろん内定は欲しかったので、合格の電話を受けたときはうれしくて大絶叫しましたよ。胸を張って『これを頑張りました』と言える経験があったことが内定につながったのだと思います」

就職は学生生活と切り離されてあるわけではありません。学生生活を充実させることが、満足のいく就職につながっていくのかもしれない。